

## Srilanka 2006

2006年9月4日～6日にかけてスリランカの小中学校4校を回ってサッカークリニックを開催し、総勢330名の子供たちに参加いただきました。同時に現地で購入したサッカーボール33個、日本から持参した新しいTシャツ80枚、その他スポーツタオル等をそれぞれの学校にプレゼントしてきました。

スリランカの学校は、小中一貫教育のところが多く、学費は無料、制服も政府から支給され、そのような点では教育制度は整っているという印象でした。しかし学校には十分な設備はなく、教室の中にも十分な光が入らない状況。インターネットはもちろん、電話もつながっていない学校が多くあり、今回のサッカークリニックのオーガナイズに関しても手紙でのやりとりで、大変苦労しました。また、サッカーボールに関しては1つの学校に1つあるかないかで、あっても空気の入らないボコボコのボールでした。サッカーはあまり盛んではない国ですが、学校によっては体育でサッカーをやるところもあるようです。しかし、ルールも分からない、ボールをどう蹴ればよいのかも分からないという状況でした。

社会情勢は不安定で最近起こったテロや北東部で悪化し始めている内戦の影響もあり、各地は厳戒体制で、町のあちこちにまた各学校の校門の前に、ライフル銃を持った警官が配備されており、平和な日本の国に育った僕には少し異様な光景でした。



子供たちは皆元気いっぱい、活発で、そしてひたむきに勉強に取り組んでいました。普段外国人を見る機会のない子供たちは好奇心旺盛で、サッカークリニックに訪れた、肌の色の違う、異国語を話す僕にとっても興味津々で、言葉は通じなくともどんどんコミュニケーションを取ろうと歩み寄ってきてくれました。そしてプレゼントした新品のサッカーボールを裸足で追いかけて、無我夢中でグラウンドを駆け回り、サッカーを心からエンジョイしてくれました。子供たちの顔からあふれ出る笑顔、みなぎるパワー、そして一生懸命な姿に本当に心打たれました。今回の主旨はサッカーの技術を教えるというよりは、サッカーの楽しさを伝え、そして共に過ごす時間をフルに満喫してもらうこと。子供たちの表情からそれらはどんどん伝わってきて、僕自身もとても充実した、素晴らしい時間を過ごすことができました。



あらゆるものがあたり前のように揃い、溢れている日本の生活と、ないのがあたり前、日本の生活と比べると足りないものだらけのスリランカ。どちらの生活が本当に幸せなのかは今の僕には分かりませんが、今回のクリニックに参加した子供たちの目の輝きは、決して日本では見られないものでした。この機会、チャンスを絶対に無駄にはしまいと、自分のプラスにしようと一生懸命でした。

後日クリニックにて撮影した写真をそれぞれの学校にプレ

ゼントして回ってきました。校庭では多くの子供たちがプレゼントしたサッカーボールを、ワイワイ言いながら追いかけ回していました。本当に今回の企画を実施できてよかったなと実感しました。子供たちは僕のことを見つけるなり、「ヨシー！」と駆け寄ってきてくれました。先生方の話によると多くの子供たちがサッカーに火がつき、夢中になっているそうです。きっとサッカーボールはこれからも有効に使われていくことでしょう。また来てほしいとの声を大変多くいただき、きっとまた子供たちの笑顔に会いに戻りたいと思っています。

尚、今回の活動はスリランカの全国紙にて掲載されました。この企画を実施するにあたり、神奈川電設様、GALLERY2様、FC50.4の皆様をはじめ多くの方々にご協力頂き大変感謝しております。皆様のご協力なしにて今回の成功は考えられません。本当にありがとうございました。

WYNRS JAPAN

菱垣 嘉仁